

KSE⇒北海道工業大学佐鳥研究室インタビュー

- ・インタビューを行った日：2007年1月29日（月）
- ・インタビューを行う人：峰松拓毅（Kansai Space Explorers B4）
- ・インタビューされた人：大野努（北海道工業大学佐鳥研究室B4）

今回は、北海道工業大学佐鳥研究室のインタビューを行いました。
北海道工業大学佐鳥研究室は、北海道衛星の開発を行っている研究室です。

インタビューに答えてくれたのは、学生代表の学部4年大野さんです。

——研究室について簡単に紹介してもらえますか？

研究内容は主に、衛星開発（「北海道衛星：大樹」他 etc...）とハイパースペクトルカメラでの解析を行っています。

今年の4年生のテーマを挙げると、

- ・レーザ通信
- ・動画圧縮（次期衛星のミッション）
- ・ハイパースペクトルカメラでのお米の品種判別
- ・農作物の収穫予想
- ・ITS

こんな感じです。

ITSとはIntelligent Transport Systemsの略で、一言で言うと車で走るのに便利な技術です。

うちの研究室では、路面状況の判別と人の判別をしました。

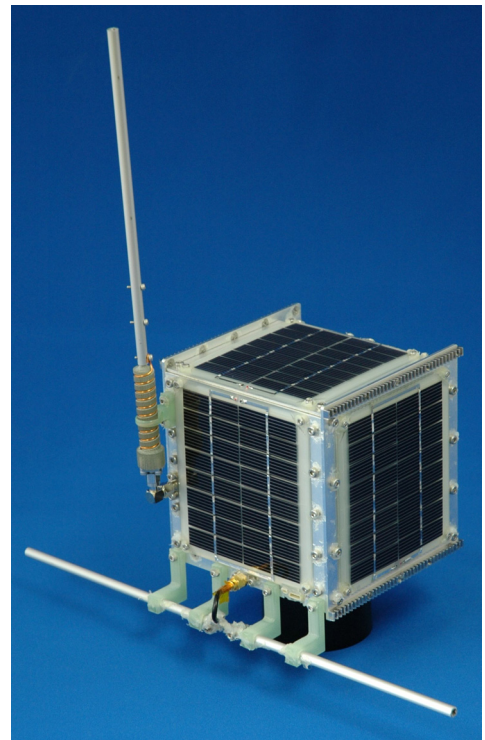


図1：HIT-SAT

——衛星の開発計画を教えてくださいませんか？

打ち上げ年数とかはまだ分かりませんが、

- 1, HIT-SAT2（「北海道衛星2号」のバス衛星）
 - 2, 「北海道衛星2号」（ミッション：動画撮影）
 - 3, 「北海道衛星2号」（ミッション：動画撮影）
- を予定しています。

——HIT-SAT2の大きさはどのくらいですか？

えーと、1辺30cmくらいですね。

CubeSat クラスよりは大きいです。

——これまで行なってきたプロジェクトについて教えてもらえますか？

HIT-SAT が電源系のプログラムを行い、宇宙連合の教育用の CANSAT (大会には出ていない。ただ作っただけ) ではプロマネを行ないました。



——研究室に入ったきっかけを教えてくださいませんか？

図 2：衛星開発の様子

まず、友達に誘われて、学生団体の宇宙連合に入りました。

そして、進級したらそのまま、ゼミに入ったという感じです。

宇宙連合とゼミは活動場所が同じ場所なんですよ (笑)

自然の流れで研究室に入っていました。

——ちなみに、北海道衛星の話はいつ頃から知っていましたか？

札幌駅の広告用のディスプレイに北海道衛星の広告が出ていたので、大学入ってすぐには知っていましたが、その時は「なんかすごいことやってるなあ」ってなもので、自分が参加するとは夢にも思いませんでした (笑)

——実際にやってみての感想はいかがですか？

いろいろとありますね。

大変だー、めんどくさいー、おもしろいー、打ち上がって感動だー。

本当にいろいろあります (笑)

正の感情と負の感情が半々です。



——それでは、参加していて面白いと感じる時、辛いと感じる時はどういう時ですか？

図 3：衛星完成の記念撮影

HIT-SAT が打ち上がった時は、感動と安堵のあまり、ため息しかでませんでしたね。

辛い時は、主に、佐鳥先生からの直々の指令が一番…

今、卒論を書いているんですけど、「あれ、付け足しといて」とか、「あの、プログラムいれといて」とか、通称「佐鳥マジック!!」

主に、メ切ギリギリにやってきます（笑）
愛のムチだと思ってがんばっております。

——高校生の時にやりたかったことと、現在やっていることとを比べてどうですか？
比べることはできないですね。

正直、大学に入ったときは宇宙関係やりたいとは思っていなかったですし、将来の夢とも無かった気がします。

何となく大学入って、何となく就職して、そんなことしか考えて無かったです。

それから考えると、ここまでアクティブにプロジェクトに参加するのが信じられませんね（笑）

——そこまで変えたものってなんだと思いますか？

う〜ん…

ものづくりは元々好きだったんですけど、高校までは何を作るのが好きってのがなかったんですよ。

大学入って、宇宙連合に入って衛星を作るのが好きになりましたね。

あとは、やりたいことをやらせてくれる研究室の環境ですね。

——今はやりたいことが出来ているんですね？

かな〜り出来ていますね。

——ちなみに、今後やってみたいこととはどんなことですか？

今は衛星開発に力を入れているんですが、暇を作ってハイパースペクトルカメラの方もやってみたいかなと思っています。

来年も学生なんで、開発だけでなく、研究もしたいですね。

——将来の夢について教えてもらえますか？

卒業する前は、いっぱい衛星を打ち上げたい。

卒業後も、いっぱい衛星を打ち上げたいですね。

あと、自分にしか出来ないミッションを提案して、宇宙へ行く！！
こんな感じですね。

——研究室での1日の生活について教えてもらえますか？

ミーティングなどは定期的にあるんですけど、定時に来て定時に帰るって決まりはないです。

よって、人それぞれですけど、基本的にはこんな感じになります。

僕の同期の人の場合、
昼過ぎに学校に来る→研究する→夕食
→研究→寝る→朝食→研究→昼食→研究
→家に帰る
ですね。

——今の研究室の満足度はどのくらい
ですか？

う～ん。90%ですかね。

やりたいことをやらせてもらえる環境
と、山のような衛星開発プロジェクト
が良いですね。



図4：ゼミの様子

——最後に、このインタビュー記事を見ている人へメッセージをお願いします。

やりたいことを出来るのは、学生の時だけだと思うんで、思いっきり遊んで、やりたい
ことをやればいいと思います。

お忙しいところインタビューに協力していただき、どうもありがとうございました！



インタビュアー：峰松 拓毅